

学類長からのメッセージ

● 「諸学融合・国際教育」の強化

筑波大学は、2007年度（平成19年度）に学群および学類の改組を行い、国際総合学類は、社会学類と共に「社会・国際学群」を構成しました。学群・学類改組に当たって国際総合学類では、社会科学分野の学問領域が共通する社会学類と連携しながら、他方で国際関係学との親和性の高い情報・環境系の諸分野の充実をはかりました。これにより、諸学融合・国際教育を強化し、文理融合の総合知として「国際学」の構築を目指しつつ、国際社会で活躍できる人材育成に努めています。広範な分野をカバーする国際総合学類のカリキュラムは多様性に富んでいて複雑なところがあります。皆さんはしっかりと履修計画をたて、カリキュラムの多様性を生かしてください。

● 国際総合学類の成り立ち

筑波大学は2023年10月に50周年を迎えました。1872年に設立された高等師範学校を起点としていることから、今年で創基154年となります。戦後の学制改革による東京教育大学を経て1973年に筑波大学となり、2023年度で50周年を迎えた長き伝統を誇る大学です。朝永振一郎博士、江崎玲於奈博士、白川英樹博士と、ノーベル賞受賞者が深く関わり、教育・研究両面で国際的に注目を浴びる総合大学として、さらに進化を続けています。

国際総合学類の前身である国際関係学類は、国際化の時代に十分に適応できる人材を育成するため、国立大学の中でこの種の学部としては最も早く1983年に創設されました。2007年には最初の卒業生がホームカミングデーで20年ぶりに母校に帰り、教員との交歓、卒業生相互の親睦を深めました。1995年には斬新な改組・再編を行い、文工にわたる学融合教育を目指した国際関係学主専攻と国際開発学主専攻から成る国際総合学類を発足させました。2007年度に学群の改組・再編を行い、2023年には学類創設40周年を迎えました。

● 「諸学融合」による問題解決型のカリキュラム

国際関係学主専攻のカリキュラムは国際関係論・国際関係史・国際経済論・国際法・国際文化などを中心とし、国際開発学主専攻のカリキュラムは経済開発・社会開発・情報学・環境学などを中心としています。このような学際性と国際性は、これまでの縦割りの一つの学問領域のみの教育では、複雑な国際社会の諸問題に適切に対応することが困難であるという考えに基づいています。また、情報科学分野も強化しつつ、社会科学の応用分野として文理融合アプローチで国際社会の課題に取り組む教育を展開しています。皆さんは多くの学問領域を学んだ後、3年次のゼミ選択の際に、研究テーマに沿って専門領域を選び、深く学ぶことで現実社会の問題を発掘し、多面的に分析・理解し、論文にまとめあげる能力を育ててください。

● 自分の専門領域をもつ

専門基礎科目を学ぶ段階で、国際関係の基礎とグローバルな視野、幅広い教養を身に付けると同時に、自分が得意とし将来的にも深く学んでいきたいという主専攻、専門分野、ディシプリンを決め、その後は、それを中心に体系的に学ぶことが大切です。皆さんの主体性を尊重して、本学類では主専攻に定員枠を設けていません。またカリキュラム上、どちらの主専攻の授業も多数履修することができます。

本学類では卒業論文の提出を義務づけています。また3年次には卒論に到る研究の準備段階として独立論文という科目も設けています。3年次からは少人数で構成される国際学ゼミナールを履修することになります。現実の政治・社会問題をテーマとして選択し、学際的関心をもちながら、自分が選んだ専門領域の知識、方法論・スキルを身につけるようにします。

● 表現力豊かで積極性・社交性に富む国際人の養成

国際総合学類は国際舞台で活躍できるような人材の育成を目標に掲げていますが、そのためには語学力の習得が重要であることはいうまでもありません。そこで、その趣旨を踏まえ、本学類では、一部の授業を英語で行っています。しかし真の国際人には語学力だけでなく、豊かな表現力やコミュニケーション力、異文化の人々とも自然に接することができる社交性や適応力、自国の文化や歴史について異国の人々に説明できるような広範な素養等が求められます。

自分の生きていくポリシーを確立して、国際舞台で自信をもって発言したり、行動したりできるように、基礎的な学力・体力・精神力を国際総合学類で是非とも身につけてください。

● 交換留学・海外研修・インターンシップ

本学類には外国人教員、外国人留学生、帰国生徒が多いことや、交換留学・海外研修・インターンシップなどで外国を経験する学生が多いことが、外国人とのコミュニケーション能力の育成に役立っています。在学中にかなりの数の学生が海外生活を体験しています。また夏休み期間中には、国際総合学類の学生は、語学研修や国内外のボランティア活動、社会貢献活動など積極的にキャンパス外でも活動し、充実した学生生活を過ごします。

● 国際総合学類履修ガイドの有効活用を

この国際総合学類履修ガイドは、(1) 国際総合学類の教育目標、(2) 主な授業科目領域の教育目標、(3) 開設科目、(4) 専門分野の履修案内、(5) 専門ゼミナール、(6) 卒業論文、(7) インターンシップを明示することによって、学生諸君の学類教育の方向や各教科に対する理解を深め、学生が主体的かつ計画的に自らの学習を組立てることができるよう支援しています。

● 国際総合学類履修ガイドを教員と学生の架橋に

国際総合学類履修ガイドを学生と教員の架橋として、学類の教育のさらなる質的向上を図ろうというのがこの国際総合学類履修ガイドの発刊に際しての願いです。国際総合学類履修ガイドの作成は教員各自が自分の担当科目について自己点検、自己評価を行うためにも活用されています。それを通じて、教員相互間の学類教育についての議論を喚起し、より高い水準の教育をめざしています。これは、学類のFD（教員組織の能力開発）活動の一環であり、このような努力は、学生と教員との共同・協働作業による能力の育成をめざす国際総合学類にとって、とりわけ重要なことと考えています。

国際総合学類履修ガイドは、カリキュラム委員会が中心になって編集しますが、内容に関しては、一番よく使う立場の学生諸君からの意見をも組み入れて、常に、より良いものにしていくよう努力しています。そのために学生諸君からのフィードバックを期待します。更なる改善のために、学生諸君からのご意見を歓迎します。

2026年4月

国際総合学類長 柏木 健一